

「これからの経営品質と地方経営品質協議会」

経営品質協議会 事務局長 小池伴緒



1995 年 12 月に日本経営品質賞が創設されて以来、全国各地で経営品質向上プログラムの考え方にもとづく地域レベルの経営品質賞が次々と誕生した。現在では 15 の地域で賞制度が展開され、活動の領域が拡大している。埼玉県においては、2003 年度に埼玉県経営品質賞制度（SQA）が創設され、これまで 23 社にもおよぶ数多くの受賞企業を輩出し、2007 年度には初の知事賞受賞企業が誕生するなど、活発な活動が展開されている。

これと並行して、賞制度を支え地域の活性化を促進することを目的に、地元経済界を中心とした普及推進組織である、各地域における経営品質協議会が、全国 22 の地域で展開されている。こうした経営品質向上プログラムに取り組む企業・組織は全国的に着実に拡大している。埼玉県においても 2003 年度に埼玉県経営品質協議会が発足した。

その一方で、経営品質向上プログラムはこれまでの拡大期から、その成果が問われる成熟期へと変わって来た。このような状況の中、埼玉県経営品質協議会においては、県内各地において経営品質のトップセミナーを開催し、多くの経営者を集めて経営品質の普及啓蒙に努めるとともに、地元経済界との関係強化をはかり、結果として会員数の増加に結びつくなど、他地域の参考になる活動を展開している。このことを高く評価したい。

今後、経営品質向上プログラムのさらなる普及のためには、このような取り組みを共有し、他の地域でも展開できるような地域間のネットワークの強化も重要な課題である。

現在、政局の混乱、サブプライム問題、エネルギー資源を中心とした物価上昇などにより、日本経済は景気後退期に突入しつつある。これに対応するにはより多くの企業・組織が経営品質向上プログラムに取り組むことによって、経営品質のレベルを上げていくことが大切であり、産業界の競争力強化をはかることが何よりも重要となる。

そのためにも、各地において、より地域に根ざした経営品質活動の充実を願っている。とりわけ埼玉県における取り組みが全国の先進モデルとなるよう期待するところ大である。



トップセミナー(於:熊谷商工会議所) 2008.9.26

CONTENTS

これからの経営品質と地方経営品質協議会

第 1 回トップセミナー 所沢

第 2 回トップセミナー 熊谷

経営革新の基礎コース

経営品質向上プログラム経過報告

埼玉県経営品質賞・協議会推進賞受審状況

埼玉県経営品質協議会ホームページのご紹介

「人材育成プログラム」受講報告 / リレートーク

会員企業紹介 株式会社アライ

第1回トップセミナーは、所沢商工会議所の後援により、所沢市民文化センターミュージズにて、地元企業をはじめとする100名以上の方々にご参集いただき開催いたしました。

冒頭、埼玉県経営品質協議会代表幹事 阿部忠、並びに所沢商工会議所専務理事 高麗建治氏の挨拶を受け、三部からなる講演を行いました。

その概要を紹介いたします。

(写真は左から、所沢商工会議所専務理事 高麗建治氏、株式会社タカヤマ 代表取締役社長 齊藤吉信氏、株式会社ハーヴィインターナショナル 代表取締役 切山英彦氏)



「埼玉が変わった」～経営品質プログラムの活用による経営革新～ 経営品質総合研究所 代表 堀 治人氏



トップセミナーは経営品質の実践事例を知る大変良い機会です。様々な業種業態の事例を聞き自社に応用するには、経営品質の考え方と仕組みを理解することが大切です。日本と世界の優秀企業の経営実践事例を基に、10年にわたり日本的経営にあわせた改定と強化が行われてきました。これは経営全体に焦点を当て改革していくプログラムです。夢を文章化し、現状を認識し、気づきと組織能力によって、組織能力をどう高めるかの自己革新のプロセスを創ることで。

「自己実現・夢実現」～依存から自立へ～

株式会社ハーヴィインターナショナル 代表取締役 切山 英彦氏



当社は2003年に埼玉経営品質協議会の会員になり、2005年度に推進賞を受賞しました。経営理念を健康で豊かな食文化、正直・素直・公正な経営・顧客の個別ニーズにこたえる商品開発、自発的こだわりの精神とし全社員で会社の価値を共有しました。

当社の顧客は製品を購入いただく加工食品メーカーです。しかし真の顧客は一般消費者です。顧客認識を見直し従前の顧客はビジネスパートナーとし、ビジネスを依存型から自立した提案型に移行しました。又、お客様共通の5つの要求・期待を設定し顧客・市場ニーズにこたえる味作りをめざすため、

5つの革新マインドを明確化しました。「利害を共有する人、会社、社会に対する責任を継続的に果たし、会社の規模の大小でなく、食品業界はもちろん、社会的に存在価値のある、そして社員一人一人が幸せで働きがい、やりがい、生きがいがあり、誇りと希望(期待)の持てる会社」を目指しています。

「より高き企業像を求めて」～経営革新活動の歩み～

株式会社タカヤマ 代表取締役社長 齊藤 吉信氏



経営者として経営革新への気づきでは目標設定・選択・行動の重要性があり、現在スローガンとして「人材と品質」を掲げ、人材経営計画書を設定しました。そしてトップポリシー「普遍的事項」5項目に取り組み、凡事徹底・凡事貫徹を実践し、経営理念尊重の経営実践、社員のベクトルあわせのための業務朝礼や従業員対話などを行っています。特にコミュニケーションの重要性を認識し、TPG 成長対話、従業員対話、情報伝達に取り組みんでいます。

タカヤマ3イズムとして働く心の開発にも取り組み、より高き顧客満足への行動を実践し、お客様から感謝状をいただいています。

経営品質向上活動の価値は1.社員重視の経営、2.顧客志向の重要性、3.社会との調和の重要性、4.独自能力の必要性、5.経営者のリーダーシップであると認識しております。これからも社員と共に企業が成長するよう努めて行きたいと考えております。



第 2 回トップセミナーは、熊谷商工会議所及び彩の国工場振興協議会の後援により、熊谷商工会議所大会議室にて開催いたしました。

100 名を超える地元企業をはじめとする皆様にご参集をいただき、冒頭、埼玉県経営品質協議会代表幹事 阿部忠、及び熊谷商工会議所専務理事 鈴木茂氏の挨拶を受け、三部からなる講演を行いました。



熊谷商工会議所専務理事 鈴木茂氏

「素晴らしい経営を実践するために」～経営品質向上プログラムの考え方と効果～
経営品質総合研究所 代表 堀 治人 氏



今日紹介する経営品質向上プログラムは経営の基本プログラムであり、経営全体に焦点を当てて改革していく手法です。その構造は理想の姿、ありたい、あるべき姿を認識し、8つの視点で企業活動をみます。

特に経営の基本として重視する理念は4つあり、顧客本位、独自能力、社員重視、社会との調和です。

経営革新を進めるにはあるべき姿と現状とのギャップを認識し、まず経営の仕組みや諸活動を自己評価し、経営の成熟度を評価することです。顧客価値の創造に向け、意識を変え、経営の仕組みを変え、実践し、見直していくことが肝要です。詳しくは埼玉経営品質協議会の教育プログラムに参加してください。

「愛と青春の俺たち」～塩気で変わる会社の味～
もしもん株式会社 代表取締役 CEO 栗原 志功 氏



当社は1998年に設立し、10年目に入りました。熊谷に本社を置き、現在60店舗を展開し、携帯電話の販売をしております。

かつて挨拶が情性になって心が消えたと思う時期がありました。情性から脱却するため、たとえば、朝礼では昨日あったうれしい話でスタートしたり、部署によっては腕立て伏せで開始するようになりました。また、お店作りで考えたことは、お客様は観客であり、店舗での接客はステージ、店員はキャスト、店長は監督、取りまとめはディレクターそして本社はZimu~syoとしました。社員が気持ちよく働きお客様の笑顔をいただけるよう、モチベーションアップの

ため接客ナンバーワンを決めるコンテストや、もしもんアカデミー賞などの表彰制度を実施しています。ベンチャーは他と同じ事をしては勝てないと思っています。直角に変化できる総力戦で立ち向かい、思いを明確にし、お客様の笑顔を求め、お客様に感動を与えることができる事業を展開し続けたいと考えております。

「見えない製品に三矢の誇りをこめて」～意識改革への挑戦～
三矢精工株式会社 代表取締役社長 高橋 尚樹 氏



当社が経営品質に取り組んだきっかけは、社内各部門における企業理念浸透不足を感じ、企業の成長に社員の成長が伴っていないと感じたことです。夢を与えるのが経営者です。往年父が会社の宣伝に利用していたフィルムをあるとき入手することができ、「見えない製品」という言葉に強く共感し、「“見えない製品”に三矢の誇りをこめて。お客様と社会に貢献できる企業であり続ける」との経営ビジョンを作りました。それに向かい、多品種少量生産に対応できる生産体制の構築や技術提案型企業、地球に優しい製品づくり、生きがい、働きがいのある職場づくりをめざしています。

埼玉県経営品質賞に挑戦すると、50ページにわたるフィードバックレポートがいただけます。自社の弱み強みを第三者に客観的に評価してもらえる絶好の機会です。特にここで指摘される弱みを大事にしています。又時に幹部の声は現場の声と違うことがあります。従業員アンケートで、職場の問題に取り組み、経営に反映されたことがわかると従業員の意識がかわります。自分の仕事に誇りがもてます。実行した結果を振り返り、中身のともなった企業となるため、経営品質活動を継続してとりくむ所存です。



～ 経営革新の基礎コース～

埼玉県経営品質協議会として初めての「経営革新の基礎コース」が、8月7日岡本講師の指導により開催されました。このコースは経営品質協議会の人材育成プログラム「経営革新の基礎」、「経営評価の基礎」、「セルフアセスメント」の3コースの中で経営革新に必要な基礎知識を修得するコースとして位置付けられています。

この研修プログラムの狙いは「自己変革×認識変革」という公式で考えられており、「自己変革」は業界常識や慣習から抜け出し、独自の発想をしようとする事、「認識変革」は単に日々の業務をルーティンとして繰り返す常態をそのまま管理すること

から脱して、変革と組織能力づくりを日々思考すること、簡単にいえば「自分を変えることを通じて、組織を変えていく」ことがテーマとなっています。そして組織能力を変革するためには、どのように考え、話し合い、行動するかを目的とした内容になっています。当日の研修内容はコーステキストがコースの目的として(1)「自己に気づく」(2)「変革者になる」(3)「変革を考える」の3点で設定されており、またテキストは下記内容で構成されているため、題材に沿う形で展開されました。



第1章「変革と変革者」	組織にはイノベーションが必要、変革は自分を変えることから始まる。意識を変える。
第2章「変革のパラダイム」	習慣的な思考法から目的に応じた思考が必要、意識の変革は固定観念に気づくこと。
第3章「意識を変える」	変革者になるには自分の中で段階的な気づきが必要、TA分析により気づきを深める。
第4章「思考を変える」	考え方の視点をどこにおくか、また何を大切にするか優先順位を定める価値前提が重要。
第5章「対話を変える」	相手を理解、共感して個人の対話力向上及びチームとしての集団の対話力を高める。
第6章「行動を変える」	マネジメントの変革、リーダーシップの刷新及びプロセス志向により組織を変革する。
第7章「成果を変える」	経営の枠組みを変え、経営の目的を生産や利益ではなく顧客にとっての価値が成果と見る。

最初のテーマ「何を革新するか」では現状の組織の問題点、すなわち常識、固定観念に従って官僚主義になりがちな組織に対し、イノベーションが何故必要かについて講義がありました。引き続き次のセッションでは「どう革新するか」がテーマとなり、各業務プロセスをどのように革新するかの講義があり、具体的項目として管理の刷新、戦略立案、革新者になる、目指す人間像、意識を変える等についてレクチャーがあり、またこの間活発なチーム討議が交わされました。続いて「気づきによる自己変容」では、自我、やりとり、ストローク、人生態度、ゲーム、人生脚本に」について講義が行われ、その後交流分析による自己分析が実施されました。やりとり分析、



ストロークのやり方やライフポジション(人生態度)に基づく対人態度、ゲーム分析は自己認識に気づき対人能力を高める上で大変参考になったと思います。

最後の講義として、思考を変える方法、対話を変える方法、行動を変える方法が講義され成果を変えることが必要との認識にいたしました。

わずか1日の研修でしたが、非常に新鮮な切り口でアンケートによる理解度も高く、是非社内で活用したいとの意見が多数寄せられました。

第二回 経営革新の基礎コース開催のお知らせ

埼玉県経営品質協議会では、下記のとおり第二回経営革新の基礎コースを開催いたします。

皆様のご参加をお待ちしております。

日 時 2008年11月4日(火) 10時～17時30分 場 所 大宮ソニックシティ会議室

参加費用 一般 57,750円 経営品質協議会会員 47,250円

お申し込み及び詳細につきましては、埼玉県経営品質協議会事務局 恩田までご連絡ください。

電 話 048-641-0084



～ 経営品質向上プログラム経過報告～

こんにちは！Dr.テラこと、寺沢俊哉です。
埼玉県経営品質協議会では、2つのコースを担当させていただいています。

- (1) Dr.テラの経営品質ワークショップ
- (2) 経営品質実践会

それぞれの回も、3回目、折り返し地点まで来ました。
両方の共通点として、前回書きましたが、

- 1 人間の可能性は無限、育成するのではなく自ら伸びる
- 2 きっかけとして「気づき」が大切。実行して定着する
- 3 お互いの成長を支援しあう場が大切。

があげられます。

今回は、それぞれのコースについて、どんな雰囲気で行っているのか、みなさんにご報告させていただきます。



(1) Dr.テラの経営品質ワークショップ (以下ワークショップと呼びます)

こちらは、経営品質向上活動を自社で展開しているマネージャーや社員の方々を対象に、コミュニケーションやリーダーシップの発揮の仕方について学んでいます。月1回で5か月間。各回は実習を中心とした内容で、これまでのところ、STEP3まで来ています。

STEP1 理想を探す > STEP2 信頼関係の構築 > STEP3 仲間を巻き込む > STEP4 理想を語る > STEP5 プレゼンテーション

体を動かしたり、考えたり、またあるときは、感動したりと、体と頭と心を使って、コミュニケーションの真髄を体得しています。

参加者のご意見としては、「今まで気づかなかった自分が見えた」「会議や研修が楽しいという経験をはじめました」「会社のミーティングでも活かしていこう」など、前向きな声が上がっています。

Dr.テラは、「楽しい環境の中でこそ、人の能力は向上する」という信念をもっているため、このペースで進めていきたいと思っています。

参加者のみなさんの気づきと成長が楽しみです。

(2) 経営品質実践会 (以下、実践会と呼びます)

こちらは、「経営品質の報告書」を書き上げる事を通じて、自社の経営すべてを見直し改善していこうとしているコースです。月1回で5か月間は、ワークショップと同じです。

STEP1 経営品質向上活動の全体フレーム > STEP2 組織プロフィールのふりかえり > STEP3 カテゴリーの理解と実践 > STEP4 カテゴリーの理解と実践 > STEP5 全体とりまとめ

「組織プロフィールができあがっている会社を対象としている」とは言うものの、半日のコース5回で、自社の報告書を書き上げる知見を得る、同時に、改善も進めていくという内容は、おそらく全国の経営品質セミナーの中でも、一番内容の濃いものであると思っています。現在、STEP3まで来ています。

参加者の方は大変。キツイ。

おまえの信念「楽しい環境の中でこそ、人の能力は向上する by Dr.テラ」と違うじゃないか？ とお叱りを受けそうですが、そうではありません。

そういう環境を楽しみと考えられる変革者の方々が集まっているという事です(笑)。

時間をフルに使って、意見のやりとりをしています。

Dr.テラ自身も、毎回発見があります。

実はこのコース、自分が新米アセッサーだったら、記述者だったら、絶対受けたいと思える内容を目指しています。

だから、まずは、自分でアセスメント、あるいは、記述してみてもいい、話の旨みがわからない。例えば「顧客・市場の理解」という項目があるが、「顧客」と「市場」はどう違うのか、我が社ではどう考えたらいいのかなど、「基準書」をとおりいっぺん読んだ時点では起きない疑問、まさに、自社に活動を展開しようとした際に起きてくる疑問を、しっかり取り上げようと思っています。

全国一、きつくて楽しいコースになればと思っています。

参加者のみなさん、一緒に極めていきましょう。あなたたちは、日本で一番のセミナーを受けているはず。Dr.テラの今までのノウハウを全開にご提供しています。

～埼玉県経営品質賞・協議会推進賞受賞状況～

2008年度の埼玉県経営品質賞及び埼玉県経営品質協議会推進賞の受付は8月20日に終了しました。本年度も多数の応募がありました。

8月25日(月) 応募企業説明会が行われました。

1. 埼玉県経営品質賞について

埼玉県経営品質協議会では、応募企業ごとに審査チーム(審査員3名と事務局1名)を結成します。現在その選任作業を進めています。

応募企業は、2008年度版日本経営品質賞アセスメント基準書に基づき申請書(A4版50ページ)を作成します。申請書の納期は11月20日(木)です。

審査チームは、12月末まで申請書の書類審査を行います。そして、1月中旬までに現地審査をしていく上での課題を明確にして、1月下旬～2月上旬に現地審査を行います。

そして審査結果を判定委員会に報告、承認を得ます。さらに判定委員会の審議結果を賞委員会に報告、表彰企業を推薦し、知事賞、優秀賞、奨励賞の受賞企業が決まります。優秀賞はB+レベル以上、奨励賞B-レベル、知事賞はB+レベル以上で最優秀の企業に贈られます。

2. 埼玉県経営品質協議会推進賞について

埼玉県経営品質協議会推進賞応募企業には、アドバイザーを配置します。9月1日から来年1月までアドバイザーは、応募企業の組織プロフィール記述のアドバイスを行います。

1月30日(金)が組織プロフィールの提出納期です。

判定委員会、賞委員会を経て、埼玉県経営品質協議会推進賞受賞企業が決まり

+++

～埼玉県経営品質協議会ホームページのご紹介～

埼玉県経営品質協議会のホームページには、埼玉県経営品質協議会のあゆみ、活動内容、プロフィールなどを掲載しています。

埼玉県における経営品質活動のあゆみは、1999年の『経営品質有志の会』から始まります。武蔵野銀行本店の会議室を借りて有志が集まって勉強会を始めました。2001年には『彩の国経営品質研究会』が組織され、埼玉リコー株式会社(当時)本社会議室で月例研究会が行われました。そして、2003年4月、埼玉県などの支援を受けて『埼玉県経営品質協議会』が事務局を大宮商工会議所(当時)において発足しました。

毎年3月に行われる『埼玉県経営品質賞表彰式』には、埼玉県経営品質賞判定委員会委員長の岡本正耿氏、早稲田大学大学院教授の北川正恭氏、株式会社J・アート・レストランシステムズ社長(当時)の望月広愛氏、株式会社サトー代表取締役会長の藤田東久夫氏、早稲田大学大学院教授の寺本義也氏をお招きし、記念講演を開催しました。

皆様にタイムリーに情報提供できるよう、本年度の事業につきましても、日程、内容等が決まり次第掲載していきます。



～「人材育成プログラム」受講報告～ SQA 運営委員 稲川 隆



2008年4月から4ヶ月にわたり、経営品質協議会の「人材教育プログラム」を受講しました。「人材教育プログラム」は「経営革新の基礎コース」「経営評価の基礎コース」「セルフアセスメントコース」の3つのコースで構成されており、全コースを修了するとセルフアセッサーとして認定を受けることができます。組織能力の向上に向け、一人ひとりの能力向上を目的としたカリキュラムが組まれています。

この研修の良いところは、講師によるレクチャー中心ではなく、グループでの話し合いが中心に進められていく点です。自らが考え理解しなければ、その話し合いに参加できませんし、グループのメンバーにも迷惑がかかりますから、自然と力が入ります。

「経営評価の基礎コース」では、実在するサービス業の会社を題材として使い、顧客価値は何か、その顧客価値を実現するために何を理解しどのようなことを行えば良いか、グループで討議をして進めていきます。研修には様々な職種(会社)の方が集まります。皆さんとのやりとりは、私にとってとても新鮮で多くの気づきを得ることができました。そのため、研修の1日1日があっという間に過ぎていきました。また、3日間のコースですが、1週間に1日というペースで進められていくため、次回の研修に向けて考える時間が持てることも非常に良い点です。

「セルフアセスメントコース」は、各自が事前課題を実施した上で研修に望みます。研修用に作成された架空の会社の「経営品質活動書」(申請書)をもとに、アセスメント基準書に沿って作成された課題に答えていきます。この事前課題は非常にボリュームがありハードです。しかし、各カテゴリーのどこにポイントを置いて考えていけば良いかが理解できるように工夫されており、わかりやすく取り組みがよい内容でした。

研修は、各自が行った事前課題を持ち寄り、グループでの話し合いを行い、意見を1つにまとめていきます。

「経営評価の基礎コース」以上に、活発な意見交換が行われます。

この研修は、経営品質の知識・能力の向上をはかりたい方や、今後経営革新を進めていく方、記述される方にとって、本当に役立つ研修だと思います。学んだことが、すぐに生かせるはずですよ。

「人材育成プログラム」を受講したことにより、受講前とは比べ物にならないくらい理解が深まりました。しかし、セルフアセッサーとして、やっとスタートラインに立てたところです。この研修で学んだことを生かし、今後もさらにレベルアップをはかっていきたいと思っています。

リレートーク 「本庄市」 SQA 運営委員 清水 洋



第一回のリレートークは、私の住む本庄市を紹介させていただきます。

本庄市は、埼玉県の西北部に位置し、北は利根川、南は里山や山間地など、水と緑の豊かな自然に恵まれています。安定した地盤を有し、自然災害も少なく、農・工・商業のバランスのとれた活気あふれる街です。2006年旧本庄市と旧児玉町が合併し、新「本庄市」が誕生しました。

この地域には古代から人々が住みついており、県内有数の大規模な原始・古代遺跡が分布しています。本庄市歴史民俗資料館には出土した“はにわ”が展示されていますが、この

“はにわ”、皆笑顔なんです。興味もたれた方は見学に来てください。平安時代には武蔵七党武士団の一つ、児玉党発祥の地として、また江戸時代中期には中山道最大の宿場町として繁栄しました。この時代では、盲目の国学学者「塙保己一」を輩出しています。

かの「ヘレン=ケラー」が来日し埼玉を訪れた際～埼玉県は塙先生の出身地で、特別の思いを持っています。母から、塙先生を目標にがんばれと励まされました～と講演で述べています。市内には塙保己一記念館や生家があります。その後明治時代には繭の集散地として日本一のまちになりますが、この時代には本庄への遷都が計画されたことがあるそうです。そして現代に至り市内には児玉工業団地、本庄いまい台産業団地などの県内最大規模の工業団地を有し、早稲田大学との産学公連携、地方拠点都市地域の中心としての大規模開発など将来性豊かなまちづくりが進められています。



株式会社アライ

2005 年度埼玉県経営品質協議会推進賞受賞

株式会社アライは、味噌・醤油の卸小売業として昭和28年に創業しました。埼玉県南を基盤とし、醸造品としての酒類飲料、食材を販売しています。

現在、酒類を始めとする飲料・食材業界は大きく変化してきています。大手4社の酒類シェアが約80%と寡占状況でメーカーの力が強くなってきています。外食での酒類販売量は低下し、嗜好の変化によりファミリーレストランが苦戦、駅近専門店が台頭してきています。

そのような中、同社は、「ひと味ひと工夫で街を楽しく元気にする」を合言葉に、地域の居酒屋などに「ともに学び、ともに育ち、ともに勝とう」と、特色ある店作り、品揃えを提案しています。また川越芋焼酎「紅」など独自ブランドづくりも進めています。外食チェーンに対しても酒類卸会社の全国ネットワークを同業者とともに作り、キメの細かいサービスで商社系卸会社との違いを出そうとしています。

提案営業、キメの細かいサービスを行っていく上で大切なのは人づくり。同社では、経営理念、行動指針を明確にして社内への定着をはかっています。また、営業発表会、役員営業同行により、情報の共有化、社長の想いの伝達、社員の育成をはかっています。



厳選されたプレミアム商品



独自ブランド「紅」を持つ新井社長

それらによりお客様からも、他店と差別化できる商品提案、トップの顔が見える会社、営業担当への信頼など高い評価をいただくようになっていきます。

同社は 2005 年度埼玉県経営品質協議会推進賞を受賞、組織プロフィールの記述を通して会社の強み・弱みを明確にしました。

また、新井社長は埼玉中小企業家同友会の代表理事として地域活性化の先頭に立っています。

会社概要

代表者：代表取締役 新井 俊雄
 所在地：川口市本町 4-1-8 川口センタービル 1F
 創業：昭和 28 年
 設立：昭和 50 年 12 月
 資本金：1 千万円
 事業：業務用酒類食材卸、小売、ギフト販売
 直営小売店舗「香味亭」
 川口店、西川口店、池袋西口店

編集後記

早いもので今年も残すところあと3ヶ月となりました。つい先日まで暑い日が続いていたにもかかわらず、ここ数日は朝晩は暖房がほしいほど冷え込むようになりました。

さて、Dr.テラの経営品質ワークショップ、経営品質実践会も後半に入って来ました。両コースとも同日に行われており、内容も濃く、寺沢俊哉氏のパワフルさに感心します。今号ではコース前半の状況を聞きました。

人材育成プログラム「経営品質の基礎コース」をSQAで初めて開催しました。変革のためには自分が変わる。第2回は11月に開催されます。

埼玉県経営品質賞、埼玉県経営品質協議会推進賞の受付が終わり、今年度は前年にも増して多くの企業が挑戦することになりました。果たして今年度は知事賞が出るのが気になるところです。

今号よりリレートークが始まりました。第1回は清水洋委員による地元本庄市の紹介。笑顔の「はにわ」、武蔵七党武士団「児玉党」、中山道一の宿場町、塙保己一、早稲田大学、県内最大規模の工業団地、と歴史、文化、産業に特徴のある地域であることが分かりました。ぶらり一人旅で行ってみませんか。